

青春 スクロール

母校群像記

http://t.asahi.com/dnnn



制作を続ける島田

横須賀高校（以下、横高）は進学校であると同時に、絵画や音楽など芸術方面で活躍するOBが輩出している。

日本洋画でフォービズムの先駆けとなった日本芸術院会員の島田章三（80、53年卒）は、授業をさぼって裏山に行っては絵

画家・漫画家・指揮者：豊かな才能育む



横須賀高校 ⑤

を描いていた。旧制横中卒で兄の陽一（故人、42年卒）は太平洋戦争で戦死。戦争画しか認められなかった時代が終わり、自由に表現できるようになった時代に章三は学ぶ。東京芸大に進学。「価値観が変わり自分を信じて描くしかなかった。横高は押しつけがなく、自分の表現ができたことは幸せだった」

アニメ「笑ウせえるすまん」などを監督した漫画家のクニトシロウ（73、59年卒）の横高時代も「戦後の影を引きずっていた」。当時、漫画は社会的に低



漫画の構想を練るクニ

く見られていたので、授業中にくっそりと似顔絵などをノートに描いていた。「部活もやらなかったし、さぼって海で遊んでいたけど好きなことをやらせてくれる校風だった」。日本史と英語の授業は、今でも歴史漫画や英語の漫画を描く時の役に立っている。

イラストレーターの鈴木英人



「色を思い描くのがイラストの特徴」を語る鈴木英人

（65、68年卒）は美術部に所属。高2の時に自宅から離れてアトリエ生活を送っていた。国語の先生と一緒に、東京まで「アンダーグラウンドシネマ」を見に行くなど、教科書とは無縁の横高時代だった。「人のやらないことをやるかと思っていった」。明るく繊細な色調の版画は、「FM STATION」などの表紙や山下達郎らのジャケットなどで人気を呼んでいる。

海外で演奏活動をする東京芸大教授のバイオリニスト清水高



念周年記念
高百の演奏会
で指揮をとった
上野

師(61、71年卒)は、17歳の時に日本音楽コンクールで優勝し、全国コンサートで忙しい日々を送った。「出席日数ぎりぎりだったが、休んでも居心地が悪いことはなかった。横高にいたことで音楽が自由にできた」。山に囲まれ、海に近いグラウンド。「きらきらしていて暖かかった。横高は音楽の感受性を磨く環境にあった。今でも演奏中にあの風景を思い出す」

神奈川フィルハーモニーや東京フィルハーモニーで指揮をする

る東京芸大講師の指揮者上野正博(47、85年卒)は、ブラズバンド部に入り、演奏が終わったから音楽室に直行。2年生の時、オーケストラのような音を出したいと、編成になかったオーボエを演奏したいと談判した。「あの行動力は今にながっている。自分で選んだことに責任を取ることを学んだ」

クニトシロウは「津波から人びとを救った稲むらの火—歴史マンガ 浜口梧陵伝」(文溪堂、1296円)で、江戸時代の巨大地震による津波から村を救った浜口の姿を描いている。横高の情報は「kanagawa@asahi.com」の「青春スクロール横須賀係」へ。